

ぎのわんの 歴史・文化遺産を 歩く 其の16

「キャンブ瑞慶覧」⑨

はじめに 今月もキャンブ瑞慶覧(西普天間住宅地区)で市教育委員会が実施している文化財調査の内容と現段階での成果速報として紹介します。

文化財調査の内容 今年度は、地表面に残されている道具(遺物)や湧泉・古墓(遺構)、などの所在や現状を目視で確認する、表面踏査を字安仁屋の緑地を中心に、実施しております。

イシジャー 県道八一号線沿いに新たに設置された新設ゲートの北側、字普天間・字新城の両字間に位置する字安仁屋の緑地は谷間となっており、イシジャーと呼ばれるれています。普段は下流の琉球石灰岩と泥岩の境目から水が流れ、上流は水が無い谷ですが、大雨の際などには上流からも水が



イシジャーの谷底



崖面と風化した鍾乳石



崖面にある古墓

流れています。谷間の崖面の一部には、奥行き数mの横穴がありその入口や内部には風化していますが鍾乳石が確認されます。詳細な年代は不明ですが、大昔イシジャー一帯は洞穴で、その天井部崩れて現在の谷間となった可能性が有ります。

表面踏査の成果 谷間の両側崖面などから約七十基の古墓が確認されています。僅かに亀田墓も確認されていますが、大部分が岩陰などを利用した岩陰墓や石灰岩を掘り込んだ掘込墓となっています。これらのうち、一基のみですが墓室内に厨子甕が複数安置されており、その蓋には、十八世紀に相当する中国年号の文字が確認されています。また、古墓のほかには戦前まで使用していた畑の畝などが確認されていることから字安仁屋の緑地は、戦後大きな地形変化がなされていないと考えられます。

問合せ：文化課 ☎89314430

茶ぐわーゆんたく

127

いい芋、ターンム

11月16日を沖縄県では、「いいイモの日」としています。イモは方言で「ム」と呼ぶことから、標準語の「イ」と方言の「ム」をくっつけ、「イム」の語呂合わせになっています。イモには、サツマイモ、紅イモ、ジャガイモ、里芋、田芋、ヤマイモなどいろいろな種類があります。沖縄のイモと云ってみなさんが思い付くのはどれでしょうか？宜野湾市でのイモと云えば大山のターンム(田芋)を思い浮かべる方が多いかもしれません。そこで今回は、大山のターンムについて取り上げます。

ターンムはサトイモ科の植物で、和名はタイモ(田芋)もしくはミズイモ(水芋)です。水田で栽培されることから沖縄本島では方言でターンムと呼ばれています。栽培に適するのは、琉球石灰岩からの湧水が流れ込む湿地で、大山のターブックワ(水田)は主要な産地となっています。

ターンムは、植付けから収穫まで一年を要するので、ほとんどのターブックワでは、需要の多い旧盆と正月に合わせて植付けします。旧盆用は夏植え、正月用は春植えと、時期をずらしています。また、清明祭や生年祝い、その他の祝祭事にも植付けをしているターブックワがあり、年間を通して収穫されています。ターンムは親芋の周りに小芋がたくさんつくことから、子孫繁

栄の食材とされ、お祝い事には欠かせない縁起物です。

ターンムを使った料理は、ジュシーや天ぷら、田芋パイなど多種多様です。また、方言で「ムジ」と呼ぶターンムの茎を使った「ムジの汁」も多くの人に好まれる一品です。カリウムやカルシウム、鉄分、ビタミンAやCなど、栄養成分が豊富で体に良いターンムをぜひこの機会に食べて、これから来る冬に備えてみてはいかがでしょうか。



▲ターンム



▲大山のターブックワ



▲ターンムを使った田芋パイ

「宜野湾市史」への問合せ
文化課 市史編集係(市立博物館内)

☎870-9317